

様式 4

<p style="text-align: center;"><b>令和 5 年度第 3 回</b></p> <p style="text-align: center;"><b>富士見市公民館運営審議会 水谷東地区会議</b></p> <p style="text-align: center;"><b>議事録</b></p>						
<b>日 時</b>	令和 5 年 1 1 月 3 0 日 (木)		開会	午後	7 時 0 0 分	
			閉会	午後	7 時 5 8 分	
<b>場 所</b>	水谷東公民館 ふれあいサロン					
<b>出 席 者</b>	委 員	久保田委員	齊藤委員	井山委員	上島委員	△
		○	○	○	○	△
	事 務 局	水谷東公民館 利田館長、佐藤主査				
<b>公 開 ・ 非 公 開</b>	公開 (傍聴者なし)					
<b>議 題</b>	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 『公民館のデジタル化』</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 「富士見の公民館 (令和 5 年度事業記録)」について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p>会議資料</p> <p style="padding-left: 20px;">資料 1 令和 5 年度富士見市立水谷東公民館事業一覧 (割振案)</p>					
<b>議 事 内 容</b>						
<p><b>議題</b></p> <p>～議事進行は久保田委員 (議長)～</p> <p>(1) 『公民館のデジタル化』について</p> <p>～事務局よりこの間のおさらい～</p> <p>【事務局】 この間「デジタル化」について色々な話があった。まずは委員の皆さまに ZOOM を体験いただいたという成果がある。年度末の答申に向けどんな文章構成にしていくか来週の全体会で報告させていただく。</p> <p>【委 員】 若年層は紙が苦手、高齢者層はそもそもネットが苦手。中間層はハイブリッド。高齢者層にはデジタル共存は厳しいかも。</p>						

【委員】ICT弱者、〇〇弱者って言葉がよくない。こういった言葉をなくさないと話は進まないと思う。例えば学校もICT化した。その時は社会全体がそっちに向いていたから。だからこそ公民館でもできることある。

【委員】デジタル化って聞くとアレルギー。高齢者って画面タップができない。どうしても緊張して長押しになってしまう。公民館の役割はサポートできる人達（コンシェルジュ）の発掘。そういった事業があってもいい。

【委員】ここでスマホ教えます的なアプリがあるといいかも。

【委員】高齢者層のデジタル化、一人で自立は無理。困ったときの駆け込み寺的な要素が公民館にはある。コンシェルジュがそれ。そのような地域の繋がりができるから職員も育つ。

【委員】公民館にはSOSの発信がしやすい。何度でも聞ける。それらを汲み取っていくのが公民館の役割だと思う。

【事務局】全体会は、答申に向けてより具体的に意見交換することになる。デジタルディバイドに関し、施設設備環境や予約手続き等、ざっくばらんな意見を共有したい。

## (2)「富士見の公民館（令和5年度事業記録）」について

【事務局】令和4年度を参考に割振りの提案。

### 4 その他

【事務局】全体会用にスピーカフォンを購入した。前回ハウリングなど問題があったので、事前に事務局でテストして臨みたい。パソコンの小さいモニターでなくプロジェクタで投影したいと考えている。

【委員】機器など問題はあるが、ハイブリッドやサテライトで講座等を開く、それこそが本当の意味でのデジタル化。

【委員】デジタル化で高齢者は無視できない。教えられる側だけがプラスになるという環境ではなく、双方が育つといった環境にしていくことが大事。

【委員】前回の全体会では発言する際、自分の姿を見ながら、またどこを見てしゃべればいいのか自分も戸惑った。

【事務局】これもデジタル化のステップの一つ。今はこういった体験を積み重ねるとき。最終的には顔を合わせて話すという事も大事。

### 【事務局】事務連絡

次回の地区会議は、全体会の一週間前とし、状況により日程調整することとしたい。

### 5 閉 会